

パレスチナ蜂起は、昨日で一四カ月目に入った。一一月一五日の独立宣言以来、シオニストの凶暴な鎮圧、そして、米帝の反リビア・キャンペーンが、パリの化学兵器禁止国際会議にもちこまれ、パン・ナム事件の真相が取り沙汰されている最中に、ふりの対米交渉にこぎつけた。パレスチナ問題が、国際政治の焦点の一として浮かび上がったその時、パン・ナム一〇三便の墜落事件が起こり、その翌日から、レーガンがリビアの化学兵器工場問題を声高に叫び

解体策動はエスカレートの一方であった。パレスチナ側は、蜂起を堅持しつつ、外交攻勢を開拓し、一三年度、この事件は、世界の目を、再度、「テロ事件」に釘づけにした。

一
パレスチナ人民の闘いの現状

蜂起一周年にあたる一二月九日は、統一民族指導部のアピールに応えて、被占領地での闘いは、多くの死傷者を出しながらも、堅持されていった。岸の多くの拠点地域も、同様の条件全被占領地でのゼネストがくりひろげられた。ガザは完全封鎖され、西ヤティ監獄では、パレスチナ政治犯が監牢をナイフで刺し、射殺された。そして、火炎瓶を投げたという名前で、一六歳の青年が、やはり射殺されている。西岸でも、銃撃を受けた蜂起が敵と味方にどのような影響を与えたのかを見てみるととも、八人がシオニスト占領軍の

目次

中東和平の進展と米帝の策動	1
P L O・蜂起民族統一指導部アピール(資料①)	8
アラファト議長のジュネーブ国連総会演説抜粋(資料②)	12
P F L P議長ジョージ・ハバショ演説(資料③)	15
赤軍声明、天皇ヒロヒトの死に関する(資料④)	19
重要日誌(1988年12月10日～1989年1月10日)	20



発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J. R. A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

は、ヨルダン大学で記念集会、デモなどが行われることになっていたが、右翼の襲撃を受け、混乱に陥った。ヨルダンの右翼学生は、アラファト議長の写真を破り散らし、投石し、棍棒で殴りかかったのである。また、専門職組合協会も、反アラファト派の妨害を受け、計画した一周年行事を打ち切らねばならなくなつた。

その後、蜂起は、ジユネーブでの国連総会におけるアラファト議長の演説、その翌日の記者会見、そして、米帝の対PLO交渉開始を受け、拡大、高揚していった。一五日のナブルスでの衝突では、五人が射殺され、それへの弾劾、抗議の闘いが繰り広げられた。次の山場は、クリスマスの闘い(ナブルス、ベツレヘム、エルサレム)、そして、一月一日のアタハ武装闘争開始記念日、一月九日の蜂起、三ヶ月自終了記念の闘いであった。被占領地の人民は、パレスチナ独立宣言、国際的承認の高まり(一月八日段階で、九六カ国)とパレスチナ国大使館の設置(八日段階で、九カ国)に勇気づけられた。そして、アラファト議長のアシマン入りと、アンマンにパレスチナ大使館が七日に設置されたことは、独立への道が到達した段階、つ

のがそれである。また、パレスチナ「独立文書」問題の発端を作った形のフェイサル・フセイニも、獄中でイスラエル「左派」国会議員と会見した折りに、やはり、被占領地での選挙、和平交渉を開始するために、一年間の停戦を提案したとされている。これは、統一民族指導部のアピールとは、真逆の方向である。もっとも、ブレイジ市長は、しばらくして、この停戦提案を取り下げはしたが。

二 イスラエルの反応—挙国一致 政府樹立

難航していた組閣が、ばたばたと、再度の挙国一致政府の樹立に至つたのは、一二月二一日のリクード一労働党政策協定調印によってであった。同協定の骨子は、PLOとは交渉せずというものがである。蜂起の実力解体で一致しているであろうことも、想像に難くない。また、これ以上の政治的孤立化を避け、シオニズムの延命を保証するため、宗教党に代表される極右の伸張を押さえこむことも、戦略

的目標として合意されていつたところの、世界的なデタントの流れの中で、被占領地の蜂起をてに、アラファト議長が事実上のイスラエル承認を行い、それが、米帝の対PLO政策の転換をもたらしたことは、イスラエルにとって、脅威であった。PLOがイスラエル承認とテロリズム放棄を宣言しない限り交渉しないとの条件を出したのは、イスラエル自身であったのだが。次期米政権の陣営が、アラブ産油反動諸国に向かっては、イラン政権が、イスラエルにとって、脅威であった。PLOとの直接対話にふみきった条件である。しかも、レーガン政権が、PLOとの戦略同盟関係に変化はない」との戦略同盟談話(資料②参照)や、退陣間際の二八日に、「イスラエルの外交攻勢に反撃として、シャミルも、書簡で請け負つても、実際の行動は米帝の利益を第一にする行動をとり、

ラエルの戦略的財産である。ブッシュ政権が、アラブ反動をひきつけて、米帝の主導権を再確立し、ソ連の影響力を抑止しようとしていること、これが、イスラエルの直面する危機である。

こうした情勢の転換に対応するべく、まず、シャミルは、二六日に、「パレスチナ人との交渉仲介の役割を米に認めないと、釘を刺した。その上で、アレンズ新外相は、就任訓示で、「パレスチナ国が、イスラエルの存在を脅かすということを証明するための外交攻勢に出る」と、方針を明らかにしている。PLOの外交攻勢に反撃として、シャミルも、外交攻勢に反撃として、テキサス州の石油独占の意向を体現しているのである。蜂起の実力解体で一致しているであろうことも、想像に難くない。また、これ以上の政治的孤立化を避け、シオニズムの延命を保証するため、宗教党に代表される極右の伸張を押さえこむことも、戦略

は、ヨルダン大学で記念集会、デモなどを行わることになっていたが、右翼の襲撃を受け、混乱に陥った。ヨルダンの右翼学生は、アラファト議長の写真を破り散らし、投石し、棍棒で殴りかかったのである。また、専門職組合協会も、反アラファト派の妨害を受け、計画した一周年行事を打ち切らねばならなくなつた。

その後、蜂起は、ジユネーブでの国連総会におけるアラファト議長の演説、その翌日の記者会見、そして、米帝の対PLO交渉開始を受け、拡大、高揚していった。一五日のナブルスでの衝突では、五人が射殺され、それへの弾劾、抗議の闘いが繰り広げられた。次の山場は、クリスマスの闘い(ナブルス、ベツレヘム、エルサレム)、そして、一月一日のアタハ武装闘争開始記念日、一月九日の蜂起、三ヶ月自終了記念の闘いであった。被占領地の人民は、パレスチナ独立宣言、国際的承認の高まり(一月八日段階で、九六カ国)とパレスチナ国大使館の設置(八日段階で、九カ国)に勇気づけられた。そして、アラファト議長のアシマン入りと、アンマンにパレスチナ大使館が七日に設置されたことは、独立への道が到達した段階、つ

ある。

蜂起のこうした闘いは、味方と敵の双方に、新しい矛盾を生んでいたのも事実である。まず、味方の内では、PLO自身の論争がまき起こった。それは、PFLPなどが表明している危惧である。また、DFLP内での矛盾となって現われている。つまり、アラファト議長の「二四二、三三八承認、テロリズム放棄」発言が、米帝への譲歩しすぎである

。蜂起の高揚の最中に、ヨルダン派が持ち出した「一年間の停戦」提案である。一月二九日、ベツレヘム市長のフレイジが、「PLOの代替え指導部を作ろうとし、限られた時間で、UNFOP(被占領パレスチナ統一民族戦線)以後、統一の一年間の停戦」と、発言した

。次に、反アラファト派の新PNC結成の呼びかけ、およびアラファト批判に見ることができる。一月六日、被占領地で、UNFOP(被占領パレスチナ統一民族戦線)以後、統一の一年間の停戦」と、発言した

。つまり、ヨルダン連邦王国案が実質的な葬られたことを意味していた。

統一民族指導部は、アビール三一号において、アラファト議長のジユネーブ演説(資料②参照)が、一九九〇年PNC決議に則したものであることを打ち切らねばならない。

そこで、蜂起が国際的支持を受け、それが、米政府の対PLO政策の転換をもたらしたことを見極めている(資料①参照)。そして、「我々は、勝利に近づいている。平和実現の直前に、もっとも激しくもっとも厳しい

対決を覚悟しておかねばならない」とするアラファト議長のアピール、さらには、一月一日のパレスチナ人民軍の結成を受け、人民軍への参加を訴えている。在外の外交攻勢と、被占領地での蜂起が連動しながら、蜂起を新しい地平へと導いていたのである。

蜂起のこうした闘いは、味方と敵の双方に、新しい矛盾を生んでいたのも事実である。まず、味方の内では、PLO自身の論争がまき起こった。それは、PFLPなどが表

明している危惧である。また、DFLP内での矛盾となって現われている。それは、PFLP創立二周年記念集会におけるハバシ議長の演説に端的に語られている(資料③参照)。

次に、反アラファト派の新PNC結成の呼びかけ、およびアラファト批判に見ることができる。一月六日、被占領地で、UNFOP(被占領パレスチナ統一民族戦線)以後、統一の一年間の停戦」と、発言した

。その意味では、新首相府官房のアヒメイルによれば、「首相は、(キャンプ・デービッド合意に規定された被占領地の問題解決に向けて)調整する準備がある。ヨルダンは、現在的には、パートナーではないもの、ヨルダンの要求を聞き、限定自衛的戦線とする)が、結成アピールの、ヨルダンの要求を聞き、限定自衛的戦線とする)が、結成アピールを有利にするという立場である。それは、統一民族指導部に参加しつつ、イスラム原理主義の宗教的立場から、イスラエルとの交渉絶対反対を掲げて、独自勢力を形成していったハマス、そして、全土解放派であるPFLP-GCとアブ・ムサ

たのである。したがって、アラブ反動の圧力をどれだけ耐えられるのか、それとも、アラブ反動が、逆にイラクの後ろ盾として、さらに、シリアを追い詰めるのか、それは、レバノン問題の解決の仕方にあらわれるだろう。

六 今後の方向

アラファト議長のジュネーブ宣言は、米帝との対話を引き出したが、敵、味方内部に新しい矛盾を引き起しき。アラファト議長は、今後も、外交攻勢を続けて、被占領地に国連軍を導入してパレスチナ国民を防衛すること、国際会議開催をかちとつて、そこで国際的圧力によって、イスラエルに譲歩させる方向をみていくだろう。二年間以内に、国際会議を開催できようというアラファト議長の発言は、示唆的ではある。全体の流れから見て、それは、大いにありうると考えられる。しかし、問題は、イスラエルの側が、いっこうにクロス承認にすら応じないということであり、国際的な和平の流れを押し止めるべく、要である蜂起鎮圧に全力をあげるだろうということである。また、それに対抗しつつ、蜂起を堅持しながらの交渉をどう進める

ことだ。そして、国連の監督下で、どもを打ち破ろう。民族統一指導部中東和平のための国際会議によつて、解决を計ることである。

戦闘的人民よ！ パレスチナ人民が民族自決の闘いを続け、PLOこそパレスチナ人の代表であるといふことを世界が認知してから、そして、米国がPLOとの対話を始めて以来、イスラエルの全党、軍、警察は、暴力を強めてきた。それは、ナブルスへの攻撃に代表される「自治案」、西エルサレムの自治体選挙と出されているが、それは、パレスチナの代表を作るという陰謀であり、なればならない。イスラエル軍を、焼き尽くすために、そして、パレスチナ人民に、闘いの道を照らしだせるよう。

シオニスト軍は、教育機関を閉鎖し、人々を破壊し、ローラー作戦で、人々を狩りだしては、畜行をふるう。蜂起解体に、躍起になっている。しかし、我々は、PLOの右腕として、蜂起に従い、次のように、闘い続けよう。

一二月二四五日、一月七日の両日は、クリスマスである。特別な祈りを捧げる日としよう。教会の鐘を、打ち鳴らそう。

一二月二四日、一月六日の両日は、イスラエルに抗議する日である。だから、すべての店を閉め、イスラエルとのどんな交渉も断とう。殉教者の家族を訪問しよう。

一二月二三日、一月五日の両日は、キリスト教徒の人々のために、すべての商店を開けよう。

一二月二八日は、マイサローンの戦闘で戦死したヨセフ・アズメ（注1）を記念して、ゼネストをしよう。

三、一月一日は、ファタハの武装闘争開始記念日である。投石、火炎び

のかということをめぐった、PLOの内部の、そして、PLO外のパレスチナ諸組織の矛盾が拡大していくことになるだろう。敵は、味方内部の矛盾を拡大、悪化させるような策動を強化するだろう。

米帝は、今までのやり方から見た場合、飴と鞭の戦術で、再び、米帝「イスラエルのイニシアチブ下の「和平」の方向へ、全体情勢を変えていこうとするだろう。それは、アラファト議長の入国査証発給拒否がジュニア宣言を引き出したというところから、直接交渉を始め、次は、强硬な態度で譲歩を迫るだろうと予測されるのである。ブッシュ政権が、どのような中東政策を展開するのか？ それは、レーガンよりはアラブ反動の顔も立てる程度のものしか知らないだろう。そこから考えると、和平の実現へむけた急激な変化は、当面、ないだろう。

こうした動きを作ったのは、闘いは、アル・ハダフの蜂起一周年記念特別号によれば、パレスチナ人民は、一年間の闘いで四〇〇人の犠牲を払った。それでもなお、蜂起を継続している。パレスチナ独立建国

のため闘い、ストを打とう。

四、パレスチナ国内のシオニスト系の会社を追い出すために、シオニストの銀行、会社への出勤を止め、ボイコットしよう。

五、占領当局の命令に反対し、抵抗しよう。

六、金曜日と日曜日は、モスク、教会での礼拝の後、ストを打ち、デモをしよう。

七、占領軍のテロ攻撃を恐れず、対決しよう。

八、一月八日は、蜂起の殉教者を記念し、また、蜂起一ヶ月目を記念して、ゼネストをしよう。

九、一月九日は、殉教者の日である。PLO、そして、民族統一指導部との团结を強め、占領者への抵抗を強めよう。

民族統一指導部は、蜂起の人民に、にしよう。

a. 産業、商業、教育の全分野にわたりて、民族的計画を守り、朝八時から一二時まで開業しよう。

b. パレスチナ国の弁護士、医者の発言は、アルジェでのPNC決議に則ったものである。PLOの重要な決定として受けとめ、行動の指針として受け止めよう。この発言の後、

たのである。したがって、アラブ反動の圧力をどれだけ耐えられるのか、それとも、アラブ反動が、逆にイラクの後ろ盾として、さらに、シリアを追い詰めるのか、それは、レバノン問題の解決の仕方にあらわれるだろう。

米帝は、今までのやり方から見た場合、飴と鞭の戦術で、再び、米帝「イスラエルのイニシアチブ下の「和平」の方向へ、全体情勢を変えていこうとするだろう。それは、アラファト議長の入国査証発給拒否がジュニア宣言を引き出したというところから、直接交渉を始め、次は、强硬な態度で譲歩を迫るだろうと予測されるのである。ブッシュ政権が、どのような中東政策を展開するのか？ それは、レーガンよりはアラブ反動の顔も立てる程度のものしか知らないだろう。そこから考えると、和平の実現へむけた急激な変化は、当面、ないだろう。

こうした動きを作ったのは、闘いは、アル・ハダフの蜂起一周年記念特別号によれば、パレスチナ人民は、一年間の闘いで四〇〇人の犠牲を払った。それでもなお、蜂起を継続している。パレスチナ独立建国

のため闘い、ストを打とう。

東において、アラブ民族主義総体を、和平へと向けている。これは、民族解放主体に、この和平の流れの中で、人民の闘いを勝利へ進める闘いを、どのように展開するのかを問うてい

る。和平の名の下で、即ち的譲歩を行えば、それは、敵を有利にし、味方の実質を失うことになる。同時に、和平を拒否するなら、自らの孤立を招くことになる。こうした条件の中

では、民族解放闘争の基本である人民の闘いの発展を中心置き、自力更正の立場を強化し、同時に、国際的な反帝勢力の協同した力を作り出す方向において闘うことが、要求さ

れるだろう。その基礎に立った外交展開が問われるだろう。

現在、最も重要なことは、第一に、蜂起を強化すること、そのための全努力を傾けることである。第二には、

イスラエルの足の下の大地を炎と化し、米、欧など、イスラエル側につ

いている勢力とイスラエルの間に楔を打ち込み、イスラエルを孤立させ

開かれている。

現在、最も重要なことは、第一に、蜂起を強化すること、そのための全努力を傾けることである。第二には、

イスラエルの足の下の大地を炎と化し、米、欧など、イスラエル側につ

いている勢力とイスラエルの間に楔を打ち込み、イスラエルを孤立させ

資料①

PLO・蜂起民族統一指導部アピール

(以下の二つは、アル・ハダフ誌四九二号に掲載されたPLO・蜂起民族統一指導部のアピールの抄訳です)

現在の世界的な和平の流れは、中東において、アラブ民族主義総体を、和平へと向けている。これは、民族解放主体に、この和平の流れの中で、人民の闘いを勝利へ進める闘いを、どのように展開するのかを問うてい

る。和平の名の下で、即ち的譲歩を行えば、それは、敵を有利にし、味方の実質を失うことになる。同時に、和平を拒否するなら、自らの孤立を招くことになる。こうした条件の中

では、民族解放闘争の基本である人

民の闘いの発展を中心置き、自力

更正の立場を強化し、同時に、国際

的な反帝勢力の協同した力を作り出

す方向において闘うことが、要求さ

れるだろう。その基礎に立った外交

展開が問われるだろう。

現今、最も重要なことは、第一に、

蜂起を強化すること、そのための全

努力を傾けることである。第二には、

パレスチナ国への認知が強まったのである。

b・アラブ諸国に訴える。各国が捕まっているパレスチナ人を釈放してほしい。PNC決議後、パレスチナ独立国への支持に止めず、支持を行って示してほしい。全アラブ国に、パレスチナ大使館を設置し、米政府に対しても、パレスチナ国を承認するよう訴えよう。

c・米国は、PLOとの交渉に踏みだした。これは、蜂起の成果である。パレスチナの大義の一つの勝利である。米国は、とうとう、PLOとの交渉に応じた。パレスチナ独立国を承認し、パレスチナの民族自決権を承認し、ワシントンにPLO事務所を開設させるのが、米国の運命だ。

d・パレスチナ国という名称で、国連オブザーバーの地位を決めた国連総会決議を、歓迎する。そして、国連総長の立場、スノウ政府に対し、ジュネーブで、パレスチナ問題討議の国連総会を開催できることに感謝する。そして、和平実現へ向けた国連総長のイニシアチブ、国連安保理の決定にのっとって、アラブ一イスラエル紛争の解決をめざす準備活動

所かまわぬ、テロ・キャンペーンをかけてきている。だから、イスラエルが、最大のテロリズムであるということを、声を大にして叫ぼう。イスラエルは、追放政策をとり、ファシスト的蛮行を重ねている。しかし、我々は、約束しよう。勝利の日、帰還の日を、実現してみせる。民族統一指導部は、シオニズムが犯した先月の蛮行の数々を國際的に明らかにし、世界の判定を仰ぐだろう。イスラエルが、パレスチナ独立国で、生活の全領域において、どんなテロをふるつていいか、それを、即刻、世界に示すだろう。

戦闘的人民の皆さん、パレスチナ人民の果敢な闘いを、誇りをもつて世界に示そう。民族統一指導部は、どんな住民の皆さん、あなた達は、闘士である。被拘留者の家族の皆さん、民族統一指導部は、PLOの軍隊としてパレスチナ人民軍が、我々の下に建設されたことを報告する。蜂起の軍隊であるこの人民軍に、すべての人々が入って闘うよう呼びかける。民族統一指導部は、戦闘的なパレスチナの婦人の皆さんに感謝する。

断固として闘う学生の皆さんに、税金ボイコットをしている皆さんに、そして、課徴金の攻撃を受けても闘う商人の皆さんに、感謝する。

民族統一指導部は、PLOの片腕である。民族統一指導部の示す道筋をよくつかんで、統一と自由の道を前進しよう。蜂起の全局面を前進させ、イスラエルとの関係を断ち切ろう。行政的な関係も、軍事命令も、丸ごと拒否しなくてはならない。

民族統一指導部は、次の行動を呼びかける。

一、全闘士の皆さんに、民族統一指導部と、人民委員会の支持に従うよう、呼びかける。人民委員会のまだない所は、即、作っていこう。人民委員会のリーダーが殺されたり、逮捕されたりしたら、即、次のリーダーを立てよう。

全人民委員会は、闘争の日には、大きな大衆デモを組織しよう。特別人民委員会を作り、イスラエルとの関係をもつている人がいかどうか、よく注意しよう。

また、パレスチナ産の民族製品のリストを作り（例えば、食糧、石鹼、家具、タバコ、肉やミルク製品など）、そのリストに従って供給しているかどうか、それを、注意しよう。

二、人民法院に、すべての犯罪、不動産上の紛争をもちこもう。人民法院で、解決しよう。そして、各々の不足分を、相互に補いあおう。あらゆる村、地域で、民族経済を作り上げていくために、相互扶助をやろう。

三、すべての人々が、文民政営、エルサレムの事務所や、会社、交通局、村落同盟などの職を辞めるよう、訴える。格好だけ辞任した人には、人民法院の処断を受けるだろうと、警告する。

攻撃隊の皆さん、辞職したのに復職しそうな人がいたら、行って、何が問題なのかを聞いて、解決しよう。

パレスチナ独立国首都のエルサレムの皆さん、地方自治体選挙を、ボイコットしよう。あらゆる機関を、パレスチナ人が運営するものに作り替えよう。この独立路線は、ヨルダン人民、アラブ人民の連帯ぬきにはできない。

教育委員会の皆さん、高等教育委員会を作つて、パレスチナの子供達の文盲化に対して闘うよう、訴える。各民族企業主の皆さんに、訴える。

再び、訴える。民族統一こそ、最重要である。民族的責任を果たし、蜂起を強化していくために、ハマス突があつたら、即、現場へ急行し、人々を救けよう。

防衛委員会、救急隊の皆さん、衝突があつたら、即、現場へ急行し、蜂起を強化していくために、ハマス呼びかける。共に、蜂起を堅持しよう。

クリスト教徒の皆さん、東方教会のクリスマス、新年おめでとう。

の開始があつたことに、感謝する。の意向に従わせて欲しい。

e・民族統一指導部は、パレスチナの民主勢力に対して、呼びかける。パレスチナ民族の権利を承認すると公言しよう。イスラエル政府に対し、パレスチナ人民との平和を要求し、パレスチナ独立国を承認させよう。

f・民族統一指導部は、イスラエルの戦闘・経済的圧力をかけ、国際世論の開始があつたことに、感謝する。

PLOとの外交関係を強化し、PLO事務所を大使館に昇格させるよう要請する。そして、イスラエルに対し、政治・経済的圧力をかけ、国際世論の意向に従わせて欲しい。

g・民族統一指導部は、イスラエルの民主勢力に対して、呼びかける。

パレスチナ独立国の人々の皆さんに、PLOとの正式な関係を樹立するよう要求していかなくては、蜂起を解体し、シオニズムの正統性を高めた。あなた達の名において、PLOの事業の小さな一つである。PLOは、あなた達は、闘いを堅持し、敵にむかって、隊伍を整えながら、前進している。我々民族統一指導部は、敵のすべての陰謀を打ち砕き、蜂起の成果を守りぬいている。闘士の皆さん、植民地主義の敵どもに対し、教育機関を開かせよう。民族的統一は、PLOの下に進んでいくために、も

の開始があつたことに、感謝する。だから、人民の皆さん、「自治」の問題に対する肯定的な見方が、欧州諸国の中に出てきたと考える。歐州諸国に対しても、大使館に昇格させるよう要請する。そして、イスラエルに対し、PLO・蜂起民族統一指導部が、PLOとの外交関係を強化し、PLO事務所を大使館に昇格させるよう要請する。そして、イスラエルに対し、PLOの正統性を高めた。あなた達の名において、PLOの事業の小さな一つである。PLOは、あなた達は、闘いを堅持し、敵にむかって、隊伍を整えながら、前進している。我々民族統一指導部は、敵のすべての陰謀を打ち砕き、蜂起の成果を守りぬいている。闘士の皆さん、植民地主義の敵どもに対し、教育機関を開かせよう。民族的統一は、PLOの下に進んでいくために、も

の開始があつたことに、感謝する。だから、人民の皆さん、「自治」の問題に対する肯定的な見方が、欧州諸国の中に出てきたと考える。歐州諸国に対しても、大使館に昇格させるよう要請する。そして、イスラエルに対し、PLOの正統性を高めた。あなた達の名において、PLOの事業の小さな一つである。PLOは、あなた達は、闘いを堅持し、敵にむかって、隊伍を整えながら、前進している。我々民族統一指導部は、敵のすべての陰謀を打ち砕き、蜂起の成果を守りぬいている。闘士の皆さん、植民地主義の敵どもに対し、教育機関を開かせよう。民族的統一は、PLOの下に進んでいくために、も

っとも重要なことは、PLOの正統性を高めた。あなた達の名において、PLOの事業の小さな一つである。PLOは、あなた達は、闘いを堅持し、敵にむかって、隊伍を整えながら、前進している。我々民族統一指導部は、敵のすべての陰謀を打ち砕き、蜂起の成果を守りぬいている。闘士の皆さん、植民地主義の敵どもに対し、教育機関を開かせよう。民族的統一は、PLOの下に進んでいくために、も

の開始があつたことに、感謝する。だから、人民の皆さん、「自治」の問題に対する肯定的な見方が、欧州諸国の中に出てきたと考える。歐州諸国に対しても、大使館に昇格させるよう要請する。そして、イスラエルに対し、PLOの正統性を高めた。あなた達の名において、PLOの事業の小さな一つである。PLOは、あなた達は、闘いを堅持し、敵にむかって、隊伍を整えながら、前進している。我々民族統一指導部は、敵のすべての陰謀を打ち砕き、蜂起の成果を守りぬいている。闘士の皆さん、植民地主義の敵どもに対し、教育機関を開かせよう。民族的統一は、PLOの下に進んでいくために、も

の開始があつたことに、感謝する。だから、人民の皆さん、「自治」の問題に対する肯定的な見方が、欧州諸国の中に出てきたと考える。歐州諸国に対しても、大使館に昇格させるよう要請する。そして、イスラエルに対し、PLOの正統性を高めた。あなた達の名において、PLOの事業の小さな一つである。PLOは、あなた達は、闘いを堅持し、敵にむかって、隊伍を整えながら、前進している。我々民族統一指導部は、敵のすべての陰謀を打ち砕き、蜂起の成果を守りぬいている。闘士の皆さん、植民地主義の敵どもに対し、教育機関を開かせよう。民族的統一は、PLOの下に進んでいくために、も

ーブにてここに、私の見解を明らかにさせてもあります。我々の平和の欲求は、戦略であり、一時的な戦術ではありません。我々は、どんなことになりますとも、平和を望んでいるのです。

パレスチナ国は、パレスチナ人の救出、そして、パレスチナ人とイスラエル人の双方にとての平和をもたらすことになるのです。民族自決とは、パレスチナ人にとっては、延命を意味します。我々が延命することにはなりません。昨日、演説で引き合いに出しましたが、パレスチナ国独立の基盤は、国連決議一八一（パレスチナ分割案）に据えています。

また、国際会議でイスラエルと交渉する基盤には、国連安保理決議二四二、三三八の受諾をも、引き合いに出しました。これら三つの決議を基盤としていくことは、アルジェでのPNCで確認されています。

昨日の演説では、決議一八一に基づいて、パレスチナ人民の自由と独立の権利を、決議二四二と三三八に基づいて、パレスチナ、イスラエル、他の隣国をも含めて、中東のすべての当事国が平和で安全に存在する確立二周年記念、蜂起一周年終了を記念した演説の抄訳である。

姉妹、兄弟の皆さん、同志諸君、そして来賓の方々、今日、私達は、蜂起一周年を記念して、ここに集まっています。また、今日は、我がPFLP創立二周年を記念して、ここに集まっています。また、今日は、我がPFLP創立二周年終了を記念した演説の抄訳である。

（これは、PFLP機関誌アル・ハダフ九四一号に掲載されたPFLP創立二周年記念、蜂起一周年終了を記念した演説の抄訳である。）

FPLP創立二周年でもあります。この集会では、私達は、パレスチナ独立宣言がなされたあとでもあります。FPLP創立二周年でもあります。

なぜなら、PFLPは、蜂起民族統一指導部の一部であります。インティファーダを堅持し、深め、強化し、拡大し、パレスチナとアラブの利益を貫徹していくことを、PFLPは、この場で明らかにしておきました。この場で明らかにしておきたくと考えています。そして、蜂起の掲げた政治スローガン、すなわち、自由と独立という目標を実現していく決意を明らかにします。PFLPの名において、シオニズムに対しても、その主要な側面である植民地主義に

資料③

PFLP議長ジョージ・ハバシ演説

対して、年を継ぎ、代を継ぎ、戦い続けること、パレスチナとアラブの土地からシオニズムを一掃するまで、戦い続けることを、PFLP議長として、パレスチナ、アラブ人民大衆の皆さん、PFLP政治局、中央委員会、カーデル諸君、前線の戦士諸君、あらゆる戦場で戦う同志諸君に、明らかにしておきたいと考えます。これが私達の任務であることを、このように私達は、独立宣言を記念して集まっているわけでもあります。

また、PFLPは、宣言することなく、PFLPは、宣誓することなく、実際に建国することとの間に、相違があると認識しているからでもあります。そのギャップを埋めていく必要があります。

私は、そうではないと否定しました。私は、どうしていいと考えました。このように質問を受けましたが、

（アラブリニアでは、PFLPは多くの記者から、強硬派を代表しているのかという質問を受けましたが、私はよく理解しているし、パレスチナの戦術が、そこからどのような反応をうけるのか、そうした戦術に向かって私達自身の準備がどのようなものか、それらをよく理解していると、私は答えました。しかし、政治宣言に自決との関連で二四二、三三八を

這裡で、私の見解を明らかにさせてもあります。我々の平和の欲求は、戦略であり、一時的な戦術ではありません。我々は、どんなことになりますとも、平和を望んでいるのです。

パレスチナ国は、パレスチナ人の救出、そして、パレスチナ人とイスラエル人の双方にとての平和をもたらすことになるのです。民族自決とは、パレスチナ人にとっては、延命を意味します。我々が延命することにはなりません。昨日、演説で引き合いに出しましたが、パレスチナ国独立の基盤は、国連決議一八一（パレスチナ分割案）に据えています。

また、国際会議でイスラエルと交渉する基盤には、国連安保理決議二四二、三三八の受諾をも、引き合いに出しました。これら三つの決議を基盤としていくことは、アルジェでのPNCで確認されています。

昨日の演説では、決議一八一に基づいて、パレスチナ人民の自由と独立の権利を、決議二四二と三三八に基づいて、パレスチナ、イスラエル、他の隣国をも含めて、中東のすべての当事国が平和で安全に存在する確立二周年記念、蜂起一周年終了を記念した演説の抄訳である。

PNCで確認されています。

こういうことは、害になるし、非生産的です。

公的関係の練習をしているのだと、こういうことは、害になるし、非生産的です。

萍の間で、討議して解決すれば、萍を止めるのは、アラファトでも、他の誰でもないということが、絶対的に明らかにされるべきです。我々の民族的目標が達成され、パレスチナ独立国家が樹立されて初めて、その時に初めて、インティファーダは、終わるのです。その意味で、EECは、

●アラファト議長のジュネーブ宣言に対するレー・ガン談話

一九八八年一二月一四日

本日、PLOは、国連安保理決議二四二、三三八を承認し、イスラエルの生存権を承認し、テロリズムを放棄する声明を発表した。

彼らは、我々が実質的対話の条件として、この間、提示してきたものであった。それらの条件が充たされた。したがって、PLO代表と実質的討議に入るよう、国務省に指示しました。

自らが発したその声明を、PLOは遵守しなくてはならない。とくに、

が、中東の和平促進に向けて、もつと有効な役割を果たしてほしいと、期待しています。EECには、政治的責任と道義的責任がありますし、それらを果たしていく力量があると想ります。

最後に、次のように宣言して、終わらせもらいます。我々は、平和を望んでいます。我々は、パレスチナ国家の中でも生きたいし、我々は、パレスチナ国家を生かしていかたいのであります。我々は、平和に身を委ねておられると思いますが、譲るべきだとか、このストークはよく聞こえておられると思いますが、譲るだけでは不足だとか、パレスチナ人は宣伝ゲームをやっているだけだと、

利を認めることを、明らかにしたのです。

テロリズムについては、昨日も放棄を宣言しましたが、不明確な言い方をしませんでした。記録しておくために、再度、明らかにさせていきます。

我々の立場をきわめて明確にしてきました。パレスチナ人はもっと譲るべきだとか、このストークはよく聞こえておられると思いますが、譲るだけでは不足だとか、

まずと、個人、団体、国家あらゆる形態を問わず、我々は、テロリズムを放棄します。アルジェリアからジョン・ネーブに来るまでの間に、我々は、ユネスコによるまでに、我々は、

和平過程において、PLOの代表と米国が対話を開始することは、重要な一步である。とりわけ、主要な

問題について、パレスチナ人が、現実的で実際的な考え方をするようになっていくためのさらなる一步であると、発展したこと示す。

しかし、米国の目標は、過去一贯してそうであつたように、中東の包摵的和平の実現である。その意味から、二つの当事者が直接交渉に入つて、いためのさらなる一步であると、みなししている。そしてそれによつてしか、包摵的和平は実現できないものだ。

米国は、イスラエルの安全と福祉に特別な責任を負っているが、これは、微動だにしないものである。実際に、この直接対話を踏み切ったのも、イスラエルが当然うけてしかるべきである。だからこそ、私達は、二四二の問題を全力あげて戦ったのです。そして、DFLPの同志たち全決議に則って解決することを国際会議に要請していくためであるとされています。しかし、この問題については、とくに注意を喚起したいと考えています。現実は現実ですが、野心は別の問題です。

私達の戦術は、そうですが、敵は別に戦術で対応しようとしており、私達の勝ちとした成果を横領しようとしています。イスラエルは、未だに国際会議を拒否しており、ペレスや、労働党ですら、直接交渉の笠をしてしか考えていないのです。極右や、宗教党が選挙で勝利してからは、や宗敎党が選挙で勝利してからは、国際会議に私達が身ぐるみ剥がされたり、説明したりすることを危惧するのです。だからこそ、私達は、二四二の問題を全力あげて戦ったのです。そして、DFLPの同志たちが、現行のアラブ世界での力のバランスをよく理解しているし、パレスチナ私達がそれを理解しているのです。なぜ、いし、よく理解し、ハバシュでも、ハワトメでも、ファッハの中央委員会委員でも、皆さんの所に来た折りには質問し、パレスチナ人民は生き



同志の皆さん、PNCの後で、兄弟アラファート議長はこう言ったのです。可能な限りの「すべての譲歩をした」、ボールは、アメリカのコートにあると。そして、もし米国政府が、この路線に対応してこないなら、PNCを招請し、稳健路線が失敗したので、決定を再考するよう報告するとも、言つたのです。アラファト議長は、譲歩という言葉は使いませんでした。しかし、PFLPは、そうした譲歩をPNCの決定に委ねたのです。その結果がどういうものとして現われたか、欧米諸政府の対応を見れば、それは明らかです。友人達の反応は、私達が「国際機関による全決定」と言つただけで、二四二と言わなくとも、何の変化もないことを確信しています。

話をもどしますと、米側の立場は、影響を受けたでしょうか？ 欧州は、どうなつたでしょうか？ 現在までの結果は、米側は、アラファートのニューヨーク入りを止めさせたということです。欧州側は、ジュネーブでの国連総会に国連大使を派遣する決意を下したということです。ですから、私は、この戦術によく注意することです。決議二四二で与えた譲歩以外は、次期PNCまでさらなる譲歩をすることはできません。

また、PLO外の諸組織をも招請して（招請に応じる、応じないにかかわらず）、パレスチナの全努力を反占領の闘いに動員していくことになりました。四つの労働組合があり、四つの学生組合があり、四つの奉仕人民委員会があり、四つの婦人組合があるといふことは、残念ながら、受け入れられることではあります。インティファーダを作り始めなくてはなりません。蜂起の一年間を経た今、そして、結成の間の経験の蓄積の前で立ち止まつてみなくてはならないと思います。

PFLPは、インティファーダとの勝利に、関心を払っています。

もし、諸組織の統一が困難なら、少なくとも、連携をとっていくことは、やらないではありませんし、人

民に提起していく日々の闘争計画に関する合意を含むものとしていかねばなりません。

アト議長は、譲歩という言葉は使いませんでした。しかし、PFLPは、そうした譲歩をPNCの決定に委ねたのです。その結果がどういうものとして現われたか、欧米諸政府の対応を見れば、それは明らかです。友人達の反応は、私達が「国際機関による全決定」と言つただけで、二四二と言わなくとも、何の変化もないことを確信しています。

話をもどしますと、米側の立場は、影響を受けたでしょうか？ 欧州は、どうなつたでしょうか？ 現在までの結果は、米側は、アラファートのニューヨーク入りを止めさせたということです。欧州側は、ジュネーブでの国連大使を派遣する決意を下していません。そして、PNCは、イスラエル承認を行なったのであります。PFLP、DFLP、PSF、PLF、そしてファーハの一部も激しく闘いました。そして、PNCは、イスラエル承認を行なったのであります。数日前、ある

対話開始条件に掲げたのが、それだけです。彼らは、私達を小馬鹿にしています。私は、本当に、行っていることがあります。私達は、本当に、行儀が悪いわけではありませんが、過

るエジプトの大衆が私の所に来て、いたらと、思わずにはいられないのです。

なぜ、PLOをアルジェリアの民族解放戦線流の組織にしようと、努力しないのでしょうか。民族解放戦線にして、全組織が、イデオロギー的に組織的独立性を保持しつつ、集団指導をとり、民主的比例代表制によって決定された機構を尊重しあうことにしないのでしょうか？ ですから、私は、次のPNCでは、必ず問題に反対した声に見合う規模の発言力を、私達は、持つていませんでした。被占領地では、イスラエル承認と交換のパレスチナ国に反対する人が、七八%にのぼつたと聞いています。PFLPの政治路線は、PNCでの代表を一四%持つていて、その重みを持つて取り入れられました。大衆の持つていているPFLPは、自分たちこそ多数派を形成していると考える

与えぬよう、警告するのです。

いかなる責任も、パレスチナ民族統一の名において、ひきうけていかなくてはならないでしようし、責任

統一の名において、ひきうけていかなくてはならないでしようし、責任

て、国民的、イスラム的な銃をいつせいにイスラエルに向けることこそ、二年目にはいった蜂起への最大の支援であることを、確認します。

今日、イスラエルがナーメ村に上陸強襲作戦をかけたが、私達の側が、将校一名と兵二名を殲滅したというニュースを聞きました（注1）。

ジャミール同志が戦死しました。これは、インティファーダ一周年の最大の贈り物であると考えます。

私の希望は、ふくらみます。そして、多くの種類のこうしたレバノン・パレスチナ共闘が成長していくほしいと希望します。LNMは、英雄スハ・ビシャラ同志（注2）のようないいのか？」と、呼びかけないとなりません。愛情、兄弟愛、同志愛をもつて、思考の観点から、共同の責任

て、領外のパレスチナ民衆の力を、どれだけインティファーダに結集させているのかという問題も考えなくてはなりません。インティファーダに動員していくことを指します。それは、そこをも併合していきます。それが、一九四八年ラーダの犠牲、それは、一九四八年ラーダに圧力をかけ、イスラエルが国内、地域、国外の圧力を考慮して、問題の政治解決を選択していかざるをえないようにしむけることです。しかし、イスラエルは、南アと同じです。世論は、歯牙にもかけないので、国際的にボイコットされ、周囲をとり囲まれていようと、その周囲の壁にぶつかっていくでしょ。

どうやって、そうしたイスラエルのやり方を変えさせることができるでしょうか？ 国際会議に合意せることは、どうしたらいいのでしょうか？

国際戦線では、とくにこの時期において、国際主義者の輪が重要です。私達の本当の同盟者を援助していくために。第一には、米政権が何十回拒否権を発動しようと、被占領地に国際的監督を導入しようとする継続的な提案がなされています。なぜなら、私達の人民が、占領当局の好きなように扱われ、悲惨を味わうしないというのは、どう考へても、不合理です。これは、パレスチナ人の土地であり、国連安保理も、それを承認しているのです。そして、それが占領されている、このことも、国連安保理が事実として認めています。ですから、この国際機関が、私達の人民大衆を保護する義務があるのです。

同志の皆さん、パレスチナ人民の流す血は、私達に責任を持つよう、真剣に、言動を一致させて、全力と可能性をかけて、行動するよう要求しています。共に、闘いましょう。

注1・一二月八日、イスラエルは、ダムール近くのナーメ村のPFLP-GC本部を襲撃。シエバード犬に爆弾を背負わせて、脱出用トンネルに突入させた作戦によって、GC幹部の殺害、逮捕を計画したが、逆に包围され、指揮官は戦死した。孤立して、コマンドに包围された部隊の救出に、イスラエルは一晩かかった。

注2・一月七日、レバノン国民党運動のスハ・ビシャラ（二十一歳）は、SLA司令官ラハドに対する死刑宣告を執行した。ラハドは、胸と腕を射られ、重傷。一月二日まで、イスラエルの病院に入院し、現在にいたるまで、現職復帰できていない。SLAは、報復にビシャラの母親を含む村人二七人をセキュリティ・ゾーンから「追放」した。

次に、現状のアラブ世界の実状では、全努力を国際会議開催に向けていかなくてはなりません。「力で奪わなければ戻す。蜂起二周年を祝う頃には、レバノン・パレスチナ共闘が逞しく前進していることでしょう。なぜなら、アラブ勢力のバランスを、一定程度、このレバノン戦場で変革していくためです。

インティファーダは、アラブの進一步的諸政党に対して、「なぜ動かないとなりません。愛情、兄弟愛、同志愛をもつて、思考の観点から、共同の責任

を、PLOの民主改革とどう結合させるのか、疑問に思う人もいるでしょうが、これこそ、ジョージ・ハウイ同志が述べたような、一年たつても、まだ、インティファーダ支援がすつきりとはやりにくい実情を作っているのです。

次に、領外のパレスチナ民衆の力を、どれだけインティファーダに結集させているのかという問題も考えなくてはなりません。インティファーダに圧力をかけ、イスラエルが国内、地域、国外の圧力を考慮して、問題の政治解決を選択していかざるをえないようにしむけることです。しかし、イスラエルは、南アと同じです。世論は、歯牙にもかけないので、国際的にボイコットされ、周囲をとり囲まれていようと、その周囲の壁にぶつかっていくでしょ。

どうやって、そうしたイスラエルのやり方を変えさせができるでしょうか？ 国際会議に合意せることは、どうしたらいいのでしょうか？

公的なアラブ・レベルの問題としては、私達は、アラブ諸国がアルジェリアでの緊急アラブ・サミット決議の実行をするよう、要請します。たくに、物質的支援活動を実行して欲深いのです。そうしたら、パレスチナ人民は、生きていくのに必要なものが手に入るでしょう。アラブ諸達は、イスラエルに四正面戦争をしかけねばなりません。この意味から、地域的要素、アラブ・レベルの要素を過少評価してはならないのです。

イスラエルと闘うには、アラブのイスラエル包囲の中での力のバランスをバネに、闘わなくてはなりません。この包囲環が、作動しないのを座視しているわけには、いきませんし、歴史的にも、アラブ民衆は、反帝闘争を展開してきたのです。現在の政治条件を肯定していたら、何も変わらないでしょ。

パレスチナ・シリリア関係で重要なことは、「シリアにとっての高い戦略的成果と、パレスチナ革命とPLOにとつての高い戦略的成果とは、同じどのような障害があるとも、双方の指導部が両者の関係を再開していく、それによって双方に益がもたらされるような、関係性をつくることによって、初めて、獲得できる」と、訴えなくてはなりません。

ロギーによって日本国民を動員し、他方、テロルによって進歩勢力を圧殺してしまうべく、この一年間のヒロヒトの喪、アキヒトの即位を大セレモニーにしようとしている。

そして、この機を利用して、アジア人民への侵略を強化しようとしているのが、日帝の野望であることを、我々は知っている。我々は、それを許さない。

五、我々日本赤軍は、天皇制の戦犯罪に決着をつける。天皇制打倒のために闘う。天皇ファシストによるいつさいのテロに、断固として対決し、進歩的人民の闘いを防衛し、ブッシュの復活と闘う。

重 要 日 誌

一九八八年二月一〇日
一九八九年一月一〇日

一二日（月）

・アサド大統領、サウジ訪問。

・フセイン国王、訪仏。

・ガザのパレスチナ人三人が、レバノンへ追放された。

・ジュネーブの国連総会で、アラファト議長が、演説。

・PLO、パレスチナ承認、支持国が六カ国にのばったと発表。

一二月一四日（水）

・アラファト議長、記者会見で、決議二四二、三三八の承認、テロ放棄を宣言したので交渉すると、発表。

一二月一五日（木）

・ナブルスで、五人が殺された。被占領地は、抗議のゼネストに三日間入った。

一二月一六日（水）

・チャニスで、第一回PLO－米会談。

一二月一七日（火）

・南レバノンから、イスラエル北部への攻撃。五人のイスラエル兵を殺し、三人戦死。

一二月一八日（水）

・ペイントで、アマル、ヒズボッラー

双方が、非難合戦。

一二月一九日（木）

・アラブ連盟、一月一日から、レバノン問題、リビア問題討議の緊急評議会開催と、発表。

一二月二〇日（金）

・右翼ラビ、来月に、西岸、ガザに「ユダヤ国」を宣言すると発表。

一二月二二日（土）

・PLOとエジプト、シャミルの選挙と「自治」提案を拒否。

一二月二九日（木）

・ベツレヘム市長、一年間の停戦－交渉を提案。

一九八九年一月一日（日）

・ファタハ武装闘争開始記念日。被占領地に人民軍創設を発表した。

一二月二四日（土）

・ベツレヘム、二年目の戒厳令クリスマス・イブ。

一二月二三日（火）

・G C C サミット、終了。

一二月二三日（金）

・シャミル内閣、成立。

一二月二四日（土）

・レバノンで、アマルとパレスチナ勢が、停戦合意に調印。南部から、イスラエル北部への戦闘。六人戦死。

一二月二五日（日）

・アラファト議長、パレスチナ国への承認、支持国が八八カ国と発表。

一二月二六日（月）

・ベツレヘム、二年目の戒厳令クリスマス・イブ。

一二月二七日（火）

・パグダッドで、PLO執行委員会を行ふ、とTV発表。

一二月二八日（水）

・シャミル、数週間に新「和平提案」

・SLA長官ラハド、イスラエルのTV

で、退院したと発表。

一二月二九日（木）

・PLO、シャミル提案を拒否。

一二月二七日（火）

・イスラエル紙、PLOとの対話支持率が初めて多数になった世論調査結果を発表。

一二月二六日（月）

・西岸のナブルス近くで、入植者のタクシー運転手の射殺死体が発見された。

一二月二五日（水）

・イスラエル軍、入植者達が、パレスチナ村の焼き討ちにかけようとするともみあう。

一月五日（木）

・西岸のナブルス近くで、入植者のタクシー運転手の射殺死体が発見された。

一月六日（金）

・アラファト議長以下PLO代表団ヨルダンへ。

一月七日（土）

・被占領地で、反アラファト派が、被占領パレスチナ民族統一戦線結成のビラ配布。

一月八日（日）

・レバノンのシーザー山で、PSPが、離散させられたキリスト教徒の帰還問題会議。シャムーンは、ボイコット。

一月九日（月）

・レバノンのシーザー派内戦闘に緩衝軍としての介入を、アラファト派が、提案。

一月十日（火）

・ベツレヘム、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十一日（水）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十二日（木）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十三日（金）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十四日（土）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十五日（日）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十六日（月）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十七日（火）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十八日（水）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月十九日（木）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月二十日（金）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿一日（土）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿二日（日）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿三日（月）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿四日（火）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿五日（水）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿六日（木）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿七日（金）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿八日（土）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月廿九日（日）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月三十日（月）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅一日（火）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅二日（水）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅三日（木）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅四日（金）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅五日（土）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅六日（日）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅七日（月）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅八日（火）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅九日（水）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月四十日（木）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅一日（金）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅二日（土）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅三日（日）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅四日（月）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅五日（火）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。

一月卅六日（水）

・ペイントで、ソ連－イスラエル外相会談。